



# 2022年の夏期休暇にむけて

## 学生部長 阿藤 正道

前期試験が終わると待ちに待った夏期休暇となる。昨年まではコロナ禍のためサークルやゼミナールの合宿も満足に実施できなかった。今年度はワクチンの接種も進み、多くの授業が対面形式に戻され、徐々にではあるがサークル等の課外活動も再開している。この夏には、久しぶりにゼミやサークルの合宿に参加する人も多いことだろう。しかし、コロナ禍がそのまま収束していく見通しは依然として立っていないので、引き続き感染対策を講じた上での活動をお願いしたい。従来のように戻るまでにはもう少し辛抱する必要があると思う。しかし、貴重な

夏期休暇を有意義に過ごしていただきたい。コロナ対策のためこれまで飲食を伴う行事などの多くは自粛となっていたが、今後は飲酒の機会も少しずつ増えてくるだろう。学生部では従来から飲酒事故の防止をさまざまな機会に呼び掛けてきた。20歳未満の飲酒、飲酒の強要、一気飲みなどは絶対にやめていただきたい。また、久々のお酒ということ、つい油断して感染対策がおろそかにならないよう注意してほしい。せつかくの夏休みを悲しい思い出にしないよう、事故防止に心がけて有意義な夏を過ごしてほしい。



トラッキングデータを解析する李教授



ベンチで戦術を確認する日本チーム

本チームは6人で臨み、選手交代もままならない状況だったが、計5戦を総力戦で戦い抜いた。李教授は、「参加することによって、選手に対する研究結果は、選手に対する科学的サポートの充実や障がい者の生きがいづくりなどに役立てることが期待される。」



日本チームの選手、スタッフと後列中央が李教授

者スポーツに携わった経験は、今後より良い指導者を目指すうえで「必ず役立つ」と話した。今大会では、専修大学スポーツ研究所(佐藤満所長)が協力し、選手個々の試合中の位置取りや走行距離・速度などのトラッキングデータも取得した。女子の障がい者スポーツにおけるトラッキングデータは希少で、李教授が中心となって解析を進めていく。研究成果は、選手に対する科学的サポートの充実や障がい者の生きがいづくりなどに役立てることが期待される。

個性豊かにキャンパスライフを送る  
「イマドキ専大生」を紹介!

韓国語と一緒に勉強中。  
K-POPが好き&韓国旅行がしたい♪

中学生の頃からテニスをやっています!

商学部  
マーケティング学科

国際コミュニケーション学部  
日本語学科

## 地震に備えを—— 防災訓練を実施

### 神田 BOSAIフェアで各種体験



6月27日から7月1日までの1週間、生田・神田両キャンパスで、地震やAEDの取り扱いを学ぶコーナーもあった。多くの学生や教職員らが参加し、防災意識を高めた。最終日には、神田キャンパスで第10回BOSAIフェアが行われた。神田警察署、神田消防署、災害救援ボランティア推進委員会の協力で、煙体消火体験などが行われたほか、学生団体のSKVからAEDの使用法を学ぶ学生

## ハラスメントのないキャンパスへ

### 権力関係を意識することがハラスメント防止の第一歩に

近年、ハラスメントをめぐるトラブルが組織の中で大きな問題になっています。ハラスメントは、不平等な権力関係から起こりやすく、例えば上司と部下、教員と学生といった上下関係から生まれます。社会的に弱い立場の部下や学生が、組織の中で大きな権限を有し社会的地位の高い上司や教員からハラスメントを受ける場合が多いのです。私たちの社会には政府、企業、大学、非営利団体などさまざまな組織が存在しますが、そのいずれも権力構造を軸に運営されています。ウェーバーやフーコー等、著名な社会学者が分析したように、組織の運営においては、リーダー的な立ち位置の上層部が権力を握り、その権力を正当化しつつ組織で働く人々を管理する必要があります。権力とは諸刃の剣であり、組織で働く人々を効率的に管理し、組織を発展させるためには有効です。しかし、その一方で、権力の肥大化が進み、上層部の暴走や、効率や業績を重要視するあまり、部下を厳しく叱責し、パワハラに発展する危険性もあります。大学組織においても、教員と学生との間のトラブルが頻繁に報道されています。教員は研究、教育活動において業績の達成に努力しています。しかし、業績重視のあまり学生への要求が過度に厳しくなると、学生の心身に深刻なダメージを与えてしまいます。教員と学生という上下関係の中で、学生は教員に強く意見を言えず、無理な要求ものんでしまいがちです。人間関係の中で常に権力関係について考え、無意識のうちに相手にプレッシャーを与えていないか自問自答し、相手の心に寄り添う必要があるのではないのでしょうか。

(キャンパス・ハラスメント対策室員 田島真弓)

## JOCから感謝状

2022年北京冬季オリンピックスピードスケート男子500m級で銅メダルを獲得した森重航さん(経営4)をサポートし国際競技力の向上に努めたとして、日本オリンピック委員会(JOC)から本学に感謝状が贈られた。感謝状は6月16日付。森重さんは本学スピードスケート部所属。昨シーズンは、ワールドカップに初参戦し、500m級では日本人2人目となる33秒台を記録。初出場のオリンピックで銅メダルを獲得するなど、躍進した。

夕涼み 神保町黒門寄席  
▽日時 7月22日(金) 18時開演▽場所 神田キャンパス「相馬永胤記念ホール」▽演目 桂小文治(昭55)「七度狐」/あつみ家雅炊(本学落語研究会)/慶安太平記 吉田の焼討!▽無料  
團栗門寄席事務局(庶務課) TEL 03・3265・6821

